

メーブルレター(43)

消えたドローン

モントリオールは、束の間ながら美しい夏を過ごしております。オールドモントリオールのマリーナには、例年並みとは言えませんが、船がちらほら停泊しています。この南仏のような、エレガントな美しい風景に心が和みます。

先週は猛暑で、その後は強い雨が続き、スカイツリーの高速エスカレーター(乗ったことはありませんが)並みの上がり下がりでの激しい気候が、自主隔離で疲れた心身を逆なでしております。ビールスよりこちらの方が体に堪えそうです。

長い自主隔離の後、少しだけ町に暮らしが戻ってきました。稼働し始めたところなのですが、今週末から、ケベック州の伝統に従い、例年通り、土木建築業が2週間の休暇に入ります。建てかけたビルも、工事中の道路も、全てを灼熱の太陽のもとに放り出し、従業員は一斉に姿を消します。がらんとした工事中の建物やでたらめに放り出されたコーンが物憂げに時を過ごしています。通常はこれに合わせて、休暇にする企業も少なくありません。何となくカナダの国全体がこの2週間はバカンス気分になります。コロナで海外旅行ができなくなったせいか、今夏は、ケベック市のホテルや田舎の賃貸シャレーなどはどこも予約がいっぱいなようです。

ドリトル先生は、こうした周りの動きにとらわれることなく、マイペースに、夢だったドローンの操作に余念がありません。ドローンを飛ばせて前方の様子を探らせながら船を操縦する、それが当初の予定だったようですが、空港に近く飛行機が頻繁に行き交うため、ドローンは禁止地域と知り、落ち込んでおります。

ともあれ、ドローン操縦の練習スタート。まずは、家の中で。料理中のマダム田中の頭の上をドローンはブーンブーンと飛び、戸棚にぶつかり、ガッチャーン。割れて粉々のワイングラス。少し慣れ、テラスに出て、空を飛ばせてテラスに着陸。おととと、マダム田中の大事な赤いバラの花をばさっと切って、テーブルに着立。

「大事なやっと咲いた赤いバラが、たった一輪のバラが、ばさっと首切り。あーそれはないわ
「ごめん、ごめん。何てドローンは忠実なんだ。ちゃんと戻ってくる。」
「戻ってくる場所が悪い。」

ドローンの飛行距離が日に日に長く、高くなり、航空写真も送信するようになり、ドリトル先生は幸せそのものでした。

そんな或る、夕立の後の風の強い夕方のこと、パタパタとテラスを走る回るドリトル先生の足音が聞こえてきます。長〜い時間をテラスで過ごし、降りてくる気配がありませんでした。やがて、首を垂れ、

「戻って来ない、僕のドローンが行方知れずだ。」

屋上やあちこちのテラスを覗き込んでさがしてみました。探知機で探ってみると、どうやら、お向かいのビルのスカンジナビア風スパの屋上に落ちたようですが、ビルには勝手に入れそうもありません。もしかしたら、その周りの地面に落ちているのではないかと、マダム田中はぐるぐる回って探りを入れていきます。やはり、無し。双眼鏡で向かいのビルの屋上を覗いてみましたが、やはり、無し。

「まるで私立探偵のように探りの入れているけど、見えるのはおしゃべりする、どうでも良いカップル。明日また、屋上を双眼鏡で覗いて、探索を続けてみるわ。アガサクリスティーの読みすぎかなあ。もしかしたらこの方が生け花の先生より向いているのかも。」

「そう、そう、探り方がプロ。」

ドローンに一喜一憂するドリトル先生を尻目に、マダム田中は、遠くに住む孫たちに宛てて長いお話を書いています。時折送られてくる孫たちの絵手紙にどう応えるか考えた末、ドリトル先生の若い頃のアフリカの暮らしを面白おかしく子供向けに書き送ることにしました。会えないうちに時だけが過ぎ、見知らぬ大人になってしまわないよう、おじいちゃんはこの暮らしをアフリカでしていたことがあったようですよ、そんなことを知らせることにしたのです。これで三度目のお話になります。子供達は郵便受けの前で毎日待っていて、送られてきた話を何度も読んであげると、義理の次男は知らせてきました。

ドリトル先生の生涯に大きな影響を与えた、日本とアフリカ。これを書きながら、アフリカを旅した気分になってみようかと思っています。

鼻っ柱の強い、パリの若造だったドリトル先生は、アフリカで大きくその価値観を変えることになったのです。当時はブワナサマキ(ミスターフィッシュ)とよばれ、インド洋に潜って熱帯魚取りをとり、世界中の水族館に輸出していたのだそうです。自分で取ったものではありませんが、中に立って送ったシーラカンスがバンクーバー水族館に飾られていました。

先回は3~4メートルあるマンボウと海の中を散歩したり、潜っているうちにインド洋に置き忘れられた話でしたが、今回はサファリ行きのお話しにしました。マサイ族との出会い、からかった象にひどい目にあった話しやサファリを仕切るシンバ(ライオン)の話しなどです。丸い地球を回って日本に行く着くまで、ドリトル先生はかなり色々と経験してきたようです。

そうこうするうちに夜も更けてきました。ドローンの喪中とのことで疲れ果て、そのまま寝込んでしまったドリトル先生ですが、今は新しいドローンの注文をどうするか思考中なようです。

「今度はドローン保険付きにしようかと思うんだ。二回の紛失は保険でカバーされるドローンにするかも。」

マダム田中は、保険付きのドローンで、これからいくつグラスを壊されるのか、どれほど家の中を荒らされるのか、テラスの花や野菜をどれほど台無しにされるのかと長〜いため息をついております。